

意思決定の質の向上のために ～荒尾市女性職員シンクタンク会議～

荒尾市 総務課 男女共同参画推進室
寺田理恵

まずは、荒尾市の現状から

荒尾市役所職員、議員の男女比

(1) 女性職員の数

※一般行政職員の数

	職員総数
総数（女性＋男性）	335
女性の数	118
女性の割合（%）	35.2

(2) 女性職員の採用状況（令和2年度新規採用）

※一般行政職員の数

採用区分	大卒程度	短大程度	高校程度	計
総数（女性＋男性）	5	1	4	10
女性の数	1	1	3	5
女性の割合（%）	20.0	100.0	75.0	50.0

(3) 女性議員

※令和2年4月1日時点について記載

	条例定数	欠員	現員総数	うち女性の数	女性の割合（%）
荒尾市議会	18	0	18	3	16.7

荒尾市役所管理職在職状況

令和2年4月1日現在

管理職の在職状況	総数（人）	うち女性数（人）	女性比率（%）
管理職総数	87	20	23.0
うち一般行政職	29	3	10.3★
部局長相当職	35	3	8.6
うち一般行政職	4	0	0.0★
次長相当職	5	2	40.0
うち一般行政職	3	0	0.0★
課長相当職	47	15	31.9
うち一般行政職	22	3	13.6★

職務上の地位別職員在職状況	総数（人）	うち女性数（人）	女性比率（%）
課長補佐相当職	32	7	21.9
うち一般行政職	23	4	17.4★
係長相当職	149	66	44.3
うち一般行政職	94	33	35.1★

審議会等の女性委員登用率

	平成29年度
1八代市	32.3%
2合志市	31.3%
3宇土市	30.0%
4宇城市	27.4%
5熊本市	25.1%
6天草市	25.0%
7山鹿市	24.3%
8人吉市	22.9%
9水俣市	22.4%
10荒尾市	22.4%
11菊池市	21.7%
12上天草市	21.4%
13玉名市	21.2%
14阿蘇市	18.4%

	平成30年度
1合志市	32.4%
2宇土市	30.4%
3八代市	29.0%
4宇城市	27.3%
5天草市	25.6%
6山鹿市	25.6%
7水俣市	24.5%
8菊池市	24.2%
9熊本市	23.8%
10玉名市	22.8%
11上天草市	20.8%
12人吉市	20.8%
13荒尾市	20.6%
14阿蘇市	17.9%

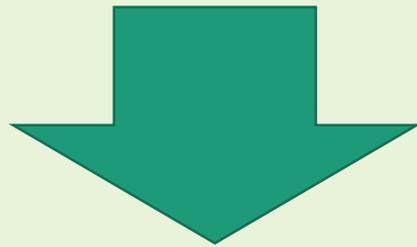
	令和元年度
1合志市	32.7%
2八代市	31.3%
3宇城市	28.5%
4宇土市	28.5%
5菊池市	27.6%
6熊本市	27.2%
7天草市	25.6%
8山鹿市	25.1%
9玉名市	24.9%
10上天草市	24.1%
11水俣市	23.0%
12荒尾市	21.8%
13人吉市	20.1%
14阿蘇市	16.6%

	令和2年度
1八代市	31.6%
2合志市	31.2%
3宇城市	30.1%
4宇土市	28.7%
5上天草市	27.0%
6山鹿市	26.8%
7菊池市	26.1%
8水俣市	25.3%
9玉名市	24.8%
10熊本市	24.2%
11天草市	24.2%
12人吉市	22.1%
13荒尾市	20.0%
14阿蘇市	17.8%

行政経営上の課題（一般行政職）

- もともと職員全体に占める女性の割合が35%
- 重要事項決定の場に参画できる女性職員（課長以上）は29人中3人（10.3%）
- 提出された議案を審議する議会の女性議員は18人中3人（16.7%）
- 審議会等の女性委員割合は20%

市民はざっくり分ければ、ほぼ男女半々で構成されているのに
（というより、女性のほうが多い）、意思決定部分の多くを占めているのは男性



ということは

①女性の声が反映されない

②決定に多様性が確保されない

③決定されたものがせい弱

まさにこの状況
に当てはまる
のでは？

男女共同参画推進室の課題

R3.2.1施行
「荒尾市審議会等への
女性の登用推進に関する
規程」

審議会等の女性委員の登用率が伸び悩み



男女共同参画推進室としては、庁内をお願いをすることしかできない。
ほかに何か自分たちでできるアプローチがないだろうか？



そもそも、審議会等の女性委員登用率をアップするのは何のため？
数値を上げることが目標ではないはず。その先の目的、目標は？



すべての市民が暮らしやすい社会となるよう、意思決定の質を向上させて、
健全な市政運営を行うため？



その目的のためなら、私たちでもできることがあるのでは？

これからはソフト（アイデア）の時代。
手持ちの人材の半分のアイデアを利用
しないのはもったいない！

荒尾市女性職員シンクタンク会議とは・・・

趣旨 …… 審議会等委員の女性委員登用率が低迷する中、多様な視点を取り入れた健全な市政運営のため、市民目線の女性の意見を集約できる場を作り、意思決定の質の向上を図る。（荒尾市女性職員シンクタンク会議設置要綱に基づくもの）

事業の特徴 …… 女性職員で行う事業であるため、特別に予算をかけずに意思決定の質の向上を図りながら、合わせて女性職員の連携と、エンパワーメントを推進していく。

目的 女性の意見を集約する場、女性職員のエンパワーメント

対象 市役所女性職員及び全課（室）

現在、20代～40代までの16名のメンバーがいます

目標 基点・基軸の形成 スキルアップ 課題の把握・提案

事業の周知 メンバー募集・意見照会の提出 メンバー決定及び日程調整 事業説明 研修会 実態・問題・課題の把握 提案 意見の集約

内容 全課(室)へ事業の周知 公募でメンバーの募集。あわせて各課(室)へ意見照会書の募集。 メンバーの決定。日程、会場の調整 メンバーへシンクタンク会議の説明 自由参加で開催(不定期) 依頼課から内容の説明。問題・課題出し 問題・課題を解決するための提案 意見を集約し依頼課へ提案

方法 部課長会 グループウェア 計画書作成 キックオフ会議 講義 ワークショップ ワークショップ 報告書作成

チーム名 「あらおForest」



- F ... Female (女性)
 - O ... Objective (目標、目的、客観的な)
 - R ... Radiant (輝きを放つ)
 - E ... Empowerment (心の体力を温め本来の力を発揮する)
 - S ... Supreme (最高な)
 - T ... Team
-
- Forest = 森 木(人)が複数集まって森(人々→集団)になる
- 【会議のコンセプト】
- ・市の施策等において客観的な視点を持ちながら、女性職員が目線で自分たちにとって必要なこと、できること等を提案する場。
- 【本会議に望む空間、空気】
- ・ひとりひとりの「木」が寄り添いながら、ほっとできる癒しの「森」として、各々が輝ける空間でありたい。



◆ とりあえず言ってみる

ここは上下関係、利害関係のないフラットで安心安全な場。中途半端な発言OK！言っぱなしOK！

◆ 反対意見は悪ではない

どちらの意見も一理あるもの。つねにメンバーへの敬意を。

◆ 対話しましょう

相互の視座やズレに気づき、相手の意見をいったん受け入れる。対話を重ねることで、安心安全な場になっていきます。

ゆるく
つながる

ワクワク

楽しい

フラット
な関係

気付き
学び

R1年度の実績

依頼事業	依頼課	シンクタンク会議の内容
女性職員の活躍推進	総務課	女性職員活躍推進に対する課題は、女性職員自身が一番感じているものだと考えるので、実際に抱える課題を提案した。
ワークプレイスの改善	総務課	きめ細かな視点からの意見もあり、少しでも働く環境を良くしたいというメンバーの思いをまとめた。
子供の読書活動推進	生涯学習課	読書を通して想像力、読解力、集中力を養い考える子どもを増やすために意見を出し合った。童話発表会の目的のズレ等、実際に関わって感じたことをまとめる場にもなった。
子育て世代包括支援センター設置に伴う新規事業について	すこやか未来課	メンバーには既婚、独身、子どもあり、子どもなし等、多様な背景から女性が必要とする子育てに係る意見をまとめた。
市立図書館利用者満足度アップ	生涯学習課	実際に図書館を見学し、ハード面、ソフト面からの提案を行った。
中央公民館利用者満足度向上	生涯学習課	中央公民館がシンクタンクメンバーの年齢層の利用者の増を目指していることから、メンバーが必要だと感じる事業や環境整備等の提案を行った。
自殺対策計画策定	福祉課	一番難しい依頼内容であったが、計画素案、荒尾市の抱える課題等から感じる意見をまとめた。
第2期子ども子育て支援事業計画について	子育て支援課	子育てに関する計画でありながら、所管課の審議員は男性多数ということから、子育てで課題を抱える母親からの実際の意見をまとめた。またこれから出産する可能性のある女性職員が子育てにイメージすることも聞くことができた。
コミュニケーションボードの利用推進	福祉課	コミュニケーションボードについて知る機会となった。コミュニケーションのバリアフリーを目指し、他市の状況を参考に意見を出した。実際、障がい者施設に関わる方にも個人的にインタビューし、意見を出したメンバーもいた。
ゴミ処理基本計画策定事業	環境保全課	いまだゴミに係ることは女性が携わることが多く、実際の生活の中で困ったこと等を出し合った。ゴミ問題が自分事として考えることができるような、分かりやすいゴミの減量化への提案を行った。

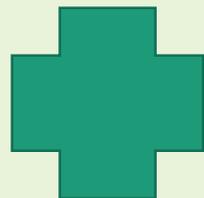
R2年度の実績

依頼事業	依頼課	シンクタンク会議の内容
広報活動に関するアンケート分析	総合政策課	幅広い層に必要とされる広報の実現と効率的な広報活動のため、市民アンケート結果と、他市の広報等を資料に意見を出し合った。
道の駅あらお（仮称）における農水産物について	農林水産課	自分たちなりにターゲットを絞り、ペルソナを作り意見を出し合った。市の設定する道の駅のコンセプトと合わせ、ニーズに沿った農水産物販売に関するアイデアを出した。
道の駅あらお（仮称）の機能やサービスの具体化	産業振興課	上記で設定したペルソナをそのまま使い、道の駅全体の機能やサービスについて考えた。
新荒尾市立図書館開館に向けての提案	生涯学習課	図書館が商業施設に入り、新たにリニューアルすることが決まったため、公立図書館としての役割、目的を達成するためにこれから必要なこと等意見を出した。
★ 2つの提言プロジェクト		市民が「荒尾市に住んでよかった」と思ってもらえることを目標に、シンクタンク会議メンバーが当事者目線で主体的に問題点を見つけ、提言をまとめている。3月末にプレゼンの予定。

その他、委員就任依頼もあり

「2つの提言プロジェクト」とは

依頼のあったこと
に提案する



シンクタンクメンバーの主体的な
提案を市長へプレゼン

2つの提言
プロジェクト

①大規模災害における職員の環境整備

<目的> 全職員参集となる大規模災害発生時、市民のために集中して業務に従事できるよう、また、市民に安心して避難していただくために、性別に偏りのない避難所運営ができるよう、組織としての環境整備について考える。

②仕事と家庭の両立のための環境整備

<目的> 共働き世帯が多数派を占める現在でも、制約の多くを抱えるのは女性であり、育児、家事、介護と仕事の両立に悩む女性は多く、またひとり親家庭も増えている。荒尾市は安心して子どもを産み育てることができる環境整備を目指していて様々な行政サービスもあるが、市民の気持ちとのずれがある部分も感じる。そのすきまに起こる市民の不安を除き、働きながら育てられる環境整備のための提案を行う。



メンバーの声

- 他ではなかなかできない、普通に感じていること、思っていることを出せた。
 - 多くの部署の方と話す機会があった。
男性が多い部署のため、新たな問題提起の仕方や視点があり勉強になった。
 - 様々な意見を受け入れてもらえる雰囲気があるので、部署や年齢、役職等関係なく素直に思ったことを発言することができた。
-
- 他部署の計画などを改めて調べたり考えたりする場を持てたことで、自分の業務にも活用できることが多かった。
 - みんなの話を聞くことで、自分自身が前向きになれた。
 - これはこういうものだからと現状を受け入れていたことも、少しでも疑問に思ったり不便に感じたことを発信することで、改善策が見つかったりするものなんだという発見があった。
 - 普段の業務ではなかなか詳細まで見ることができていなかった他部署の計画等について、担当部署からの説明等を聞くことができ知識の習得にもつながった。
 - 他の方の意見をよく聞き、自分なりの意見も出来るだけ出すようにした。
 - 他部署の女性職員と一緒に取り組むことで仲間意識が生まれ、何かあった時に相談したりしやすくなった。

子育てに関する意見を出し合ったときに、子育てをしてない私では思いつかない意見を見たりしたとき、男女共同参画ってこういうことなんだろうなと改めて思いました。平等であることも必要とは思いますが、とにかくいろんな人がいろんなことに参加して、意見を出して、決めていったほうが、後々全然うまくいくんだろくなみたいなの・・・いまさらですが。

依頼課からの感想

- 今後、子育て支援強化のために、働く女性がどのようなサービスを必要としているか、様々な視点で提言を受けることができ参考になった。いただいた提案内容は、令和2年度からの新規事業のアイデアとして活用する他、現在の実施事業の拡充のためのヒントとして活用した。また、すぐに実現が困難なものも、今後も継続して検討していきたいと考えている。
- 元喫煙室の利活用についてフリースペースルームとして提案していただき、提案していただいた内容について関係課で協議し、部屋の改修について財政課管財係が来年度に予算化している状況です。
- 今回利用させていただいて女性職員からの柔軟な発想や多くの意見をいただき職員の職場環境を少しでも良くしたいという気持ちが伝わってきたので、また利用したい。
- 担当課で検討する中では出てこなかった意見、提案などがあり、別の視点での着眼点が得られることは、たいへん有益であり、特に新規事業などを検討する際には、ぜひ活用させてもらいたい。
- 短い時間の中で意見をまとめられ、報告書の内容がすばらしいのは言うまでもないが、それぞれの業務とは別に、時間をつくって参加されている女性職員が多くいることは、今後の荒尾市にとって大きなプラスとなることと思う。これからの活躍を期待しています。

国連提唱の持続可能な開発目標（SDGs）。昨年の日本の達成度は166カ国中17位でした。北欧の国が上位を占める中で、先進国の面目を辛うじて保っています。

ただ、17のグローバル目標のうち、圧倒的に評価が低いのがジェンダー平等です。なんと世界121位。あらゆる先進国に遠く及ばず、甚だ恥ずかしい状況です。女性国会議員数、男女の賃金格差、無償労働（家事労働）を行う時間の男女格差等が判定基準。私も職業柄、多くの国の政府と交渉しましたが、日本ほど女性リーダー、意思決定者が少ない国はあまり見ません。

行政に女性の視点を

そんな中、荒尾市役所で、画期的な取り組みが始まっています。女性職員シンクタンクという有志グループが、市の重要な政策、意思決定に対して、女性の視点から提案していくものです。

昨年度から活動を開始し、本年度は道の駅や図書館の設計段階等でシンクタンクの意見が反映されました。メンバー16人は多忙な通常業務との両立が悩みの種ですが、「施設利用者のほとんどが女性なので、計画に女性の視点導入

は必須」との浅田敏彦市長の言葉は説得力抜群でした。この取り組みには追加予算も不要のため、枠組みの意義についても市役所内での認知は高まっています。今後は市民からの認知度も高めてもらいたいところです。

世界の過半は女性。女性ならではの、しなやかな提案が「当たり前」として行政に反映されることで、あらゆる住民が住みやすい場になる。荒尾市がその先進例になってほしいと願っています。



県立大国際教育交流センター特任教授

田中 耕太郎

2021.1.27

R3.1.27 熊本日日新聞 夕刊コラム

熊本県立大学 国際教育交流センター 特任教授

熊本県 国際政策相談役

田中耕太郎 氏

女性の視点 施策に反映

荒尾市職員16人 部署超えシンクタンク



市の施策について提言する「女性職員シンクタンク」のメンバー
＝荒尾市

荒尾市役所には、施策の立案に積極的に関わる女性のグループ「女性職員シンクタンク」がある。2019年4月に結成した有志の集まりで、現在のメンバーは20、40代の16人。「出身母体」は、税務課や子育て支援課など、全26課中9課で、職域を超えた横のつながりが特徴。自殺対策計画やごみ処理基本計画などに、アイデアを提供してきた。

自殺対策、ごみ減量… アイデア、改善点を提言

シンクタンクは、年度初めに各部署から案件を募り、公民館の利用満足度向上や子ども読書活動推進など、初年度は10件、20年度は5件が寄せられた。メンバーは、1案件に対し、勤務時間内に2回の会議を開催。課題や改善点をまとめ、市の自殺対策計画策定では「相談を受けるポランティアへの支援が必要」と提言。ごみの減量では市民に「れなら取り組める」と思ってもらえるように「お茶わん何杯分」と表現するアイデアを出し、採用された。グループ代表で、シンクタンク結成を呼び掛けた総務課の寺田理恵さん(47)は入庁以来、職場で女性が意見を言える場が少ないと感じていたという。市民の半分は女性なおかしく思った。地域を変えたい、まずは行政が変わることが必要」と、意義を説明する。

メンバーで生涯学習

(樋口琢郎)

課の馬場理恵子さん(49)は「女性同士は意見も言いやすい、部署間の連携も取りやすい。他部署が、何をやっているかを知りアイデアを出し合うことで市民サービス向上にもつながっている」と活動を振り返る。もうすぐ発足2年。役所内の認知度も上がった。県立大国際教育交流センターの田中耕太郎特任教授(50)は「女性リーダーが少ない日本社会で画期的な取り組み、制度と仕組みを整えるだけで、予算も必要ない。他自治体への波及効果も期待できる」と評価する。

地域を変えていくには、まずは
自治体が変わっていくことが重要

ご清聴ありがとうございました

